

新大橋整備基本方針（原案）に関する意見募集の結果

実施概要

実施期間：平成 29 年 3 月 21 日（火）～平成 29 年 4 月 21 日（金）

広報：島根県ホームページ、市報、県民だより（新聞）への掲載

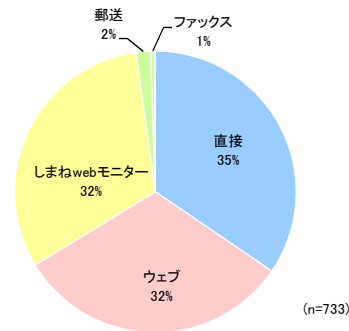
県庁各所、県松江合庁、市役所、一部公民館へのアンケート用紙配置等

提出方法：郵送、ファックス・メール、しまね電子申請サービス（WEB）、直接提出

1. 回答者の属性

①提出・回答方法

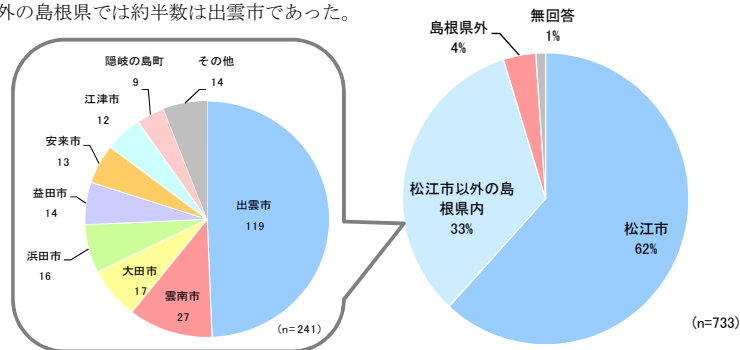
直接提出とウェブ、しまね web モニターがほぼ 3 分の 1 ずつを占めた。



②居住地

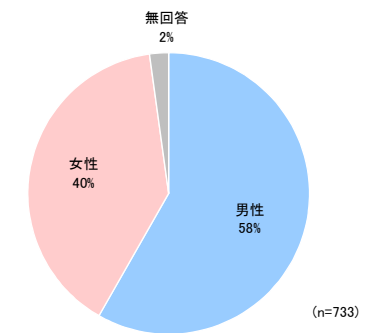
回答者の居住地は、約 62%が松江市内の居住で、次いで約 33%が松江市以外の島根県となっており、ほとんど島根県内の居住者であった。

松江市以外の島根県では約半数は出雲市であった。



③性別

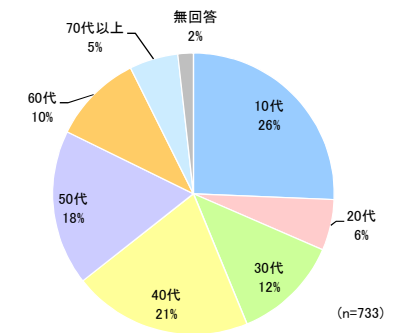
性別では、男性が約 58%で、女性より若干多くなっている。



④年代別

年代別では、10代が最も多く全体の約 26%を占めている。

その他の年代では、30代～50代が多くなっており、中でも40代がもっとも多かった。



2. 回答結果

①問1

(設問) 新大橋の整備にあたっては、「水都・松江の風景を彩、新しいふるさとの原風景をつくる橋」

をテーマに、次のようにコンセプト（大切にすべき3つの柱）を設定しています。

- ・まちと水辺が一体となった大橋川の伸びやかな風景を引き立てる橋
- ・渡りやすく、佇みたくなる居心地の良い橋
- ・市民の居場所となる水辺広場や川沿いのまちへの回遊性を生み出す橋

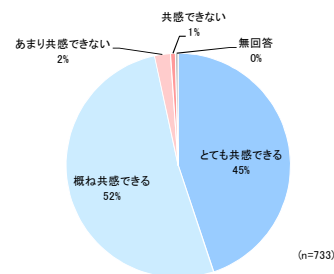
このテーマ及びコンセプトについて、どのように思われますか？あてはまるものに1つだけ

○印を記入してください。

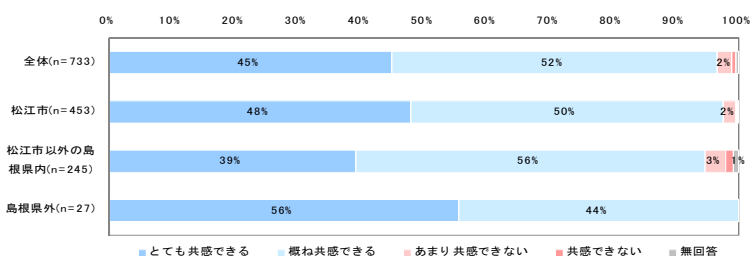
全体として、約45%の方から「とても共感できる」との回答があり、「概ね共感できる」を含めると約97%の方から共感が得られた。

居住地別による大きな変化は見られなかったが、年代別では、若年層ほど「とても共感できる」の割合が高くなっている。

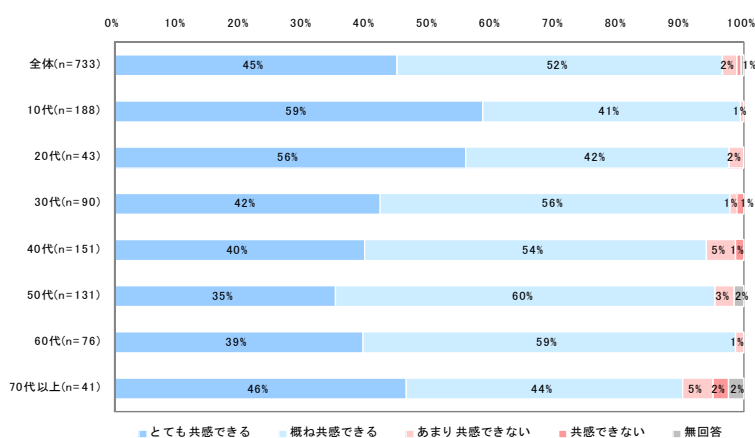
「共感できない」、「あまり共感できない」は、40代と70代で割合がやや高かった。



テーマ及びコンセプトに対する共感度 (居住地別)



テーマ及びコンセプトに対する共感度 (年代別)



②問2

(設問) 問1で共感できる（共感できない）とお考えの点などがあれば、お聞かせください。

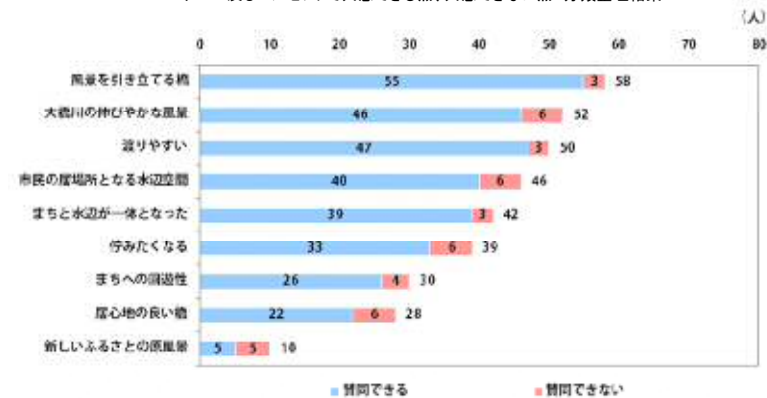
テーマ及びコンセプトに対して、肯定的な意見と否定的な意見とに分類整理した。

全体的に肯定的な意見がほとんどであった。特に「風景を引き立てる橋」、「大橋川の伸びやかな風景」、「渡りやすい」に賛同的な意見が多く、関心度が高かった。

否定的な意見としては、「居心地がよい橋」、「佇みやすい」、「市民の居場所となる水辺空間」、「大橋川の伸びやかな風景」に対し、少し多くなっている。

また、「ふるさとの原風景」に対する意見数は少なく、賛否が分かれた結果になっているものの、否定的な意見のほとんどは明確な否定的な意見ではなく、「イメージしにくい」とか「わかりにくい」というものであった。

テーマ及びコンセプトで共感できる点、共感できない点 分類整理結果



③問3

(設問) コンセプトの実現に向け、設計方針(設計上の具体的な留意事項)として次の5項目を設定しています。

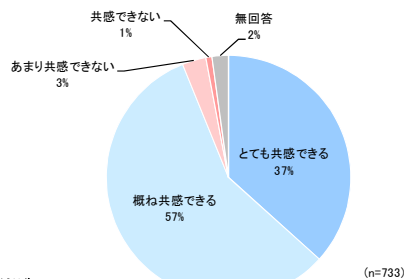
- ① 全体方針
- ② 橋梁全体のデザイン
- ③ 橋上空間のデザイン
- ④ 橋詰のデザイン
- ⑤ 市民参加のデザイン

設計方針について、どのように思われますか?あてはまるものに1つだけ○印を記入してください。

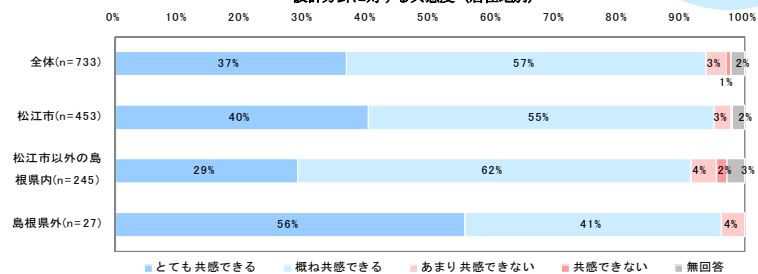
全体として、約37%の方から「とても共感できる」との回答があり、「概ね共感できる」を含めると約94%の方から共感が得られた。

居住地別では、松江市外の島根県の方で共感できない側の割合が少し高くなっている。

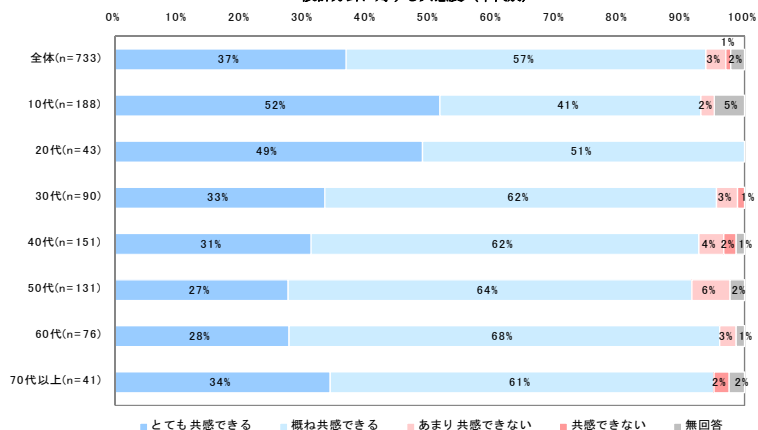
年代別では、若年層ほど「とても共感できる」の割合が高くなっている。40代、50代で「あまり共感できない」の割合がやや高かった。



設計方針に対する共感度 (居住地別)



設計方針に対する共感度 (年代別)



④問4

(設問) 問3で共感できる(共感できない)とお考えの点などがあれば、お聞かせください。

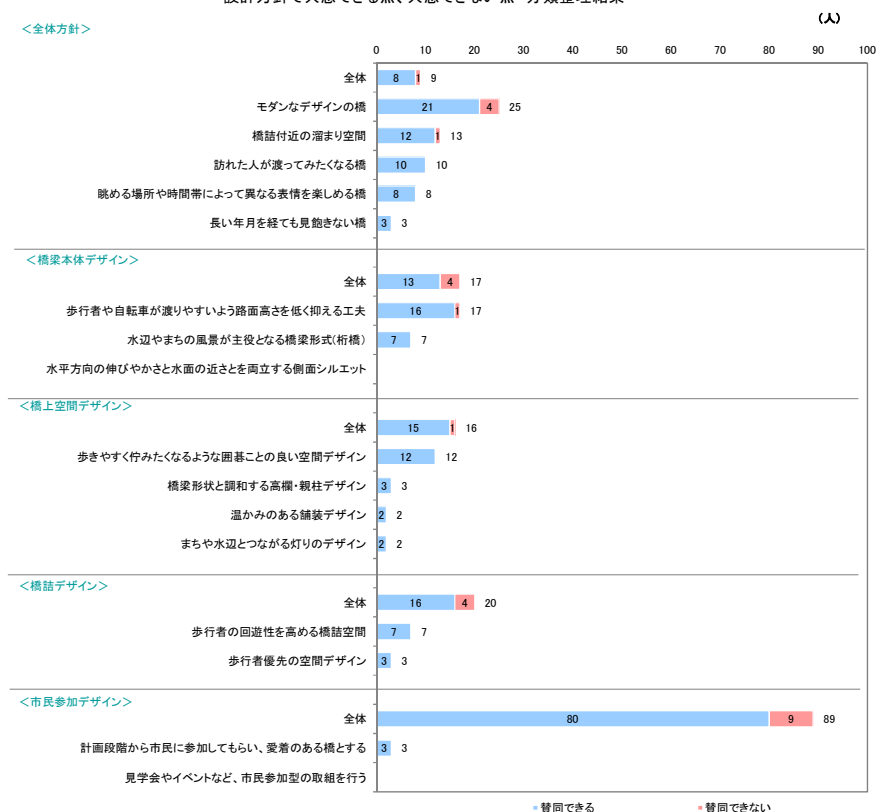
設計方針に対して、肯定的な意見と否定的な意見とに分類整理した。

全体としては、「市民参加のデザイン」に賛同的な意見が多く、期待の大きさが窺われる。

また、「全体方針」に対する賛同的な意見が多く、特に「モダンなデザインの橋」に対して賛同的な意見が最も多かった。

その他の個別項目では、「歩行者や自転車が渡りやすいような路面高さを低く抑える工夫」に賛同的な意見が多かった。

設計方針で共感できる点、共感できない点 分類整理結果



⑤問5

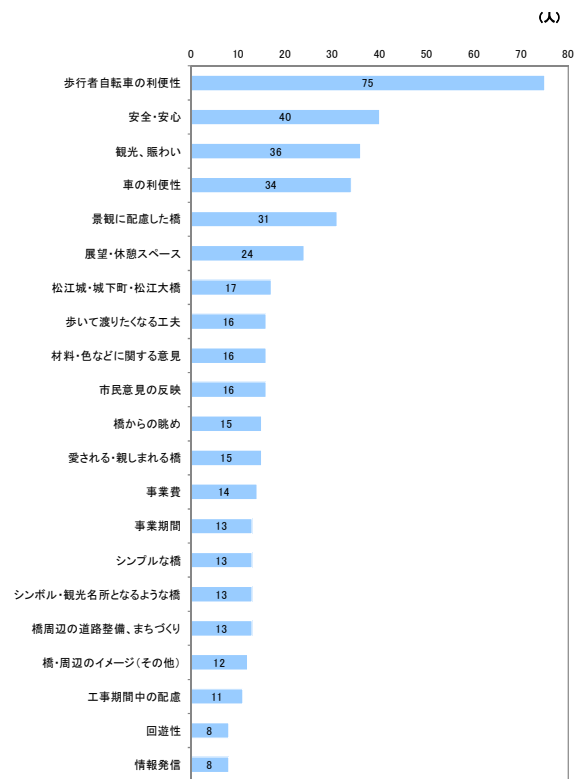
(設問) その他、新大橋の整備についてのご意見をお聞かせください。(379)

「歩行者自転車利用者の利便性」に関する意見が最も多く、加えて「安全・安心」や「車の利便性」など、機能性を求める意見が多かった。また、「観光・賑わい」、「展望・休憩スペース」、「歩いて渡りたくなる工夫」など、橋の利用を高めること、或いは橋と連携した賑わいづくりを意識した意見が比較的多かった。

橋のイメージについては、「景観に配慮した橋」を求める意見が最も多く、「城下町・松江城、松江大橋」に合う橋、「愛される・親しまれる橋」、「シンプルな橋」、「シンボル・観光名所となるような橋」といった意見の数は同程度だった。

その他、「事業費」、「事業期間」、「工事期間中の配慮」といった事業そのものや工事に対する懸念的な意見も寄せられた。

新大橋整備 自由意見 分類整理結果(意見数の多い20位まで)



3. 問2、問4、問5における自由意見に対する事務局の見解

| 大分類 | 小分類 | 意見数 | 主な意見(要約・集約) | 事務局の見解 |
|---------|------------------|-----|--|--|
| 事業 | 事業期間 | 16 | ・早期完成を。 ・時間をかけて検討を。 | 平成30年代前半の工事着手に向け、市民の皆様や専門家の意見をいただきながら計画づくりを進めます。 また、工事期間は可能な限り短縮できるよう今後の詳細設計の中で検討いたします。 |
| | 工事期間中の配慮 | 11 | ・通行への支障、周辺建物への影響がないように。 | 複々、通行への支障がないよう迂回路を設置するとともに、工事にあたっては、低騒音、低振動等の機械を使用するなど、周辺影響の低減に努めます。 |
| | 事業費 | 18 | ・無駄がないように。 ・デザインに拘りすぎて費用が膨らまないように。 | デザインだけでなく、建設費用や維持管理面も踏まえて総合的に検討します。 |
| 橋に求める機能 | 車の利便性 | 52 | ・渋滞の緩和・解消を。 ・凍結防止などの対策を。 | 将来の交通量を踏まえた上で、4車線計画としています。また、凍結や積雪については、凍結防止剤の散布や除雪を行い、適切な維持管理に努めます。 |
| | 歩行者自転車利便性(橋詰を含む) | 107 | ・縦断勾配を緩くして。 ・歩道を広くして。 ・橋詰の段差をなくして。 ・障がいを持つ人も通行しやすくして。 | 松江市ひとやさしいまちづくり条例や松江市自転車ネットワーク計画に基づき、多くの方が利用しやすい歩行環境・自転車走行環境を確保します。 橋詰については、国で実施する大橋川改修との整合を図りながら検討し、橋と水辺の連続性を確保します。 |
| | | 8 | ・風よけを設けて。 | 強風対策としては、防風フェンスの設置が考えられますが、橋からの眺めを阻害したり、新大橋の景観上も望ましくないと考えます。 |
| | 展望・休憩スペース | 27 | ・橋に展望台、ベンチ、座れる場所の設置を。 | 橋区間全体を標準幅よりも広い歩道を設けることで、橋区間全体を展望スペースとする考えですが、ベンチ等の設置も含め景観検討委員会等の意見も踏まえ決定します。 |
| | 維持管理 | 10 | ・維持管理のことを考えるべき。 | 建設費用や維持管理面も踏まえて総合的に検討します。 |
| | 安全・安心 | 62 | ・車・自転車・歩行者が安全に渡れるように。 ・安全が第一。 ・安全性を方針に加えるべき。 | 各種の安全に関わる基準を踏まえ、それぞれの利用者が安全・安心して渡れる橋とします。安全性の確保は、特に考慮すべき事項であることから、基本方針に盛り込みます。 |
| | 橋からの眺め | 18 | ・橋からの川やまちなみの眺めを大切に。 ・穴道湖の夕日が眺められるように。 | 新大橋からの眺望を妨げないよう、上部構造のない桁橋とし、橋の上でゆっくり佇める空間づくりを目指します。 |

| 大分類 | 小分類 | 意見数 | 主な意見(要約・集約) | 事務局の見解 |
|--------|------------------|-----------|--|---|
| 橋のイメージ | 松江城・城下町・松江大橋 | 43 | ・城下町にふさわしい橋を。 ・松江大橋の風情にあった橋を。 ・和風・古風な橋を。 ・モダン過ぎずどこか懐かしい橋を方針に加えてほしい。 | 長く大橋川の風景を形作ってきた松江大橋と新大橋との関係性を継承するため、城下町の雰囲気も継承する松江大橋に対して、新大橋はまちの新たな賑わいにつながる、モダンなデザインの橋が適していると考えます。 |
| | 歴代、現在の新大橋 | 10 | ・既設橋材料の再利用、現橋の記録・保存を。 ・現在の風情を。 ・面影を残して。 | 今後の検討課題とします。 大橋川の風情を大切にしつつ、まち全体の魅力を高められるような橋を目指します。 |
| | 水都・松江にふさわしい橋 | 20 | ・水都・松江にふさわしい橋、引き立てる橋を。 | 水都を象徴する大橋川の風景を引き立てる橋を目指します。 |
| | シンプルな橋 | 14 | ・奇抜でない橋、主張しすぎない橋を。 ・シンプルが良い。 | 大橋川の風景を引き立て、長い年月を経ても見飽きない橋を目指します。 |
| | シンボル・観光名所となるような橋 | 29 | ・松江のシンボルとなる橋を。 ・橋を観光スポットに。 ・今と同じような橋だとつまらない。 | 遠景では大橋川の風景になじむシンプルで美しい形態と、近景では洗練された意匠を持ち合わせ、訪れた人が渡ってみたい橋を目指します。 |
| | 水辺との距離感を大切にする橋 | 8 | ・水面に近い(歩道)橋を。 | 大橋川の洪水流下や船舶航行を妨げない範囲で、路面高を抑える工夫をします。 |
| | 愛される・親しまれる橋 | 16 | ・好感・親しみの持てる橋、愛着のある橋を。 | 市民の皆様にあふれる橋となるよう、景観や渡りやすさに十分配慮するとともに、設計や工事の段階から、市民の皆様にご参加頂くことを考えております。 |
| | 景観に配慮した橋 | 33 | ・周囲の景観にあうように。 ・水上からの眺めにも配慮を。 | 大橋川の風景を引き立てる橋を目指します。また、多様な展望地点からの景観にも配慮します。 |
| | 橋・周辺のイメージ(その他) | 12 | ・おしゃやかな橋。 ・温かい感じの橋。 ・明るいイメージの橋。 | 基本方針に示すとおり、遠景では、大橋川の風景になじむシンプルで美しい形態と、近景では洗練された意匠を持ち合わせ、訪れた人が渡ってみたい橋を目指します。 また、手触りのよい素材や親しみのある材料を用い、橋梁形状と調和する高欄、親柱のデザインとともに、暖かみが、自然素材の風合いを生かした材料による舗装デザインとします。 |
| | 橋の細部デザイン | 照明・ライトアップ | 4 | ・照明を明るくして ・照明を暗くして ・夜間のライトアップを |
| 色・材料 | | 20 | ・川を引き立てる色で。 ・県産木材を使って。 | 松江市景観計画の色彩基準を踏まえ、大橋川の伸びやかな風景を引き立てるような色彩を検討します。また、居心地の良い空間となるよう、材料についても今後検討していきます。 |

| 大分類 | 小分類 | 意見数 | 主な意見(要約・集約) | 事務局の見解 |
|-------------|-----------------|-----|--|--|
| 橋その他 | 新しい名称 | 6 | ・新名称を公募しては。 | 新大橋の名称は、長年に渡って使用され、市民の皆様にも馴染んでいると考えられるため、現在の名称を継承していきたいと考えています。 |
| 水辺・橋詰 | 水辺と橋との関連性 | 5 | ・大橋川の改修を考慮しなくていいのか？ | 新大橋の設計に当たっては、国で実施する大橋川改修との整合を図りながら検討し、橋と水辺の連続性を確保します。 |
| | 回遊性、親水性 | 9 | ・橋の下を通れるように。 ・水辺に親水性を。 | 国で実施する大橋川改修では、橋の下に通路を設けるなど、回遊性や水辺の親水性に配慮する方向で検討が進められていると聞いています。 |
| まちづくり | 橋周辺の道路整備、まちづくり | 20 | ・周辺・川沿いのまちづくりを併せて。 | 松江市とともに今後検討していきます。 |
| | 観光・賑わい | 50 | ・カフェ等の誘致、駐車場整備、桜並木整備。 ・新大橋を取り込んだ観光ルートの整備。 ・宍道湖等の周辺観光資源との連携。 ・民間との連携。 | 大橋川の沿川地域が賑わいのある空間となるよう、市民の皆様や松江市とともに検討していきます。 |
| 市民・関わり | 市民意見の反映 | 25 | ・自由に意見を言える場を。 ・デザインの市民公募や投票を。 ・どう合意し、決定するか。 ・最終的にはデザインは専門家に任せられた方が良い。 | 専門家で構成する景観検討委員会を設置して、景観に関する意見・助言を頂きながら設計を進めます。また、今後予定する市民意見交換会や公開展示等を通じて、市民の皆様の見解、アイデアを募り、今後の参考にします。 |
| | 情報発信 | 10 | ・計画や検討時期・内容の情報発信・PRを ・全国的な知名度アップを。 | 今後予定する市民意見交換会や公開展示その他の広報を通じて、情報発信に努めます。 |
| その他方針に対する意見 | 順序変更 | 2 | ・市民参加のデザインを全体方針のなかに ・市民参加のデザインを全体方針の次に。 | 全体方針には、橋のデザインの基本的な方向性を示しており、市民参加のデザインについては、全体方針を実現する手段として、設計方針の中に記載しております。 |
| | 実現性への懸念 | 8 | ・本当に方針どおりできるのか疑問。 | 市民の皆様にあされる橋となるよう計画づくりを進めます。 |
| | テーマ(新しいふるさと原風景) | 5 | ・イメージしにくい。 ・説明不足。 | 「新しい原風景をつくる橋」とは、市民一人一人の心の中にいつまでも残り続ける風景となるような橋、印象深い、忘れることのできない風景を構成する1つの要素となり得る橋、という意味です。そのような橋を目指します。 |
| | 分からない・分かりづらい | 27 | ・抽象的でイメージが湧かない。 ・イメージしにくい。 | 基本方針は、設計を進める上での方向性・方針を定めるものですので、ご理解をお願いします。 |
| 反対意見 | 事業に反対 | 1 | ・他にお金をかけるべき場所がある | 新大橋架け替えは、災害時の緊急輸送路としての耐震性の確保や、歩行者自転車の安全な通行を確保するため必要な事業と考えています。 |
| | 方針に反対 | 12 | ・とにかく安い橋でよい。 ・デザインなど不要。 ・強引にテーマを持たせている。 ・松江市の特色を出した方針とは思わない。 | 松江市中心市街地に架かる橋であるため、永く市民の皆様にあされ、松江市の賑わいづくりに貢献する橋とする必要があると考えますので、専門家や市民の皆様のご意見を伺いながら検討を進めます。 |

テーマ

『水都・松江の風情を彩り、
新しいふるさとの原風景をつくる橋』

大橋川は、嵩山や和久羅山の山並みと秀峰・大山を背景に、柳そよぎ情緒あふれるまちなみと一体となった水都・松江を代表する水辺です。この川に架かる松江大橋と新大橋は、伝統と未来を担う両輪のような関係として、永く市民の暮らしを支え、大橋川の風景を形作ってきました。

このたび、架橋から 80 年以上が経つ新大橋は、大きな地震への対応と歩きやすい歩道の実現のため、大橋川の改修に合わせて、新しい橋へと架け替えることになりました。

新しい新大橋の設計にあたっては、水都・松江の風情を彩る現代的で佳麗な姿と、渡りやすく佇みたくなる歩行空間、まちと水辺の回遊性を高める橋詰空間を備えたデザインとします。

これにより、通学時に眺めた朝靄に煙る姿や、家族と河岸から眺めた青空に映える姿というように、大橋川周辺が市民ひとりひとりの原風景となり、ふるさと・松江への愛着と、まち全体の魅力をより高めるような橋を目指します。

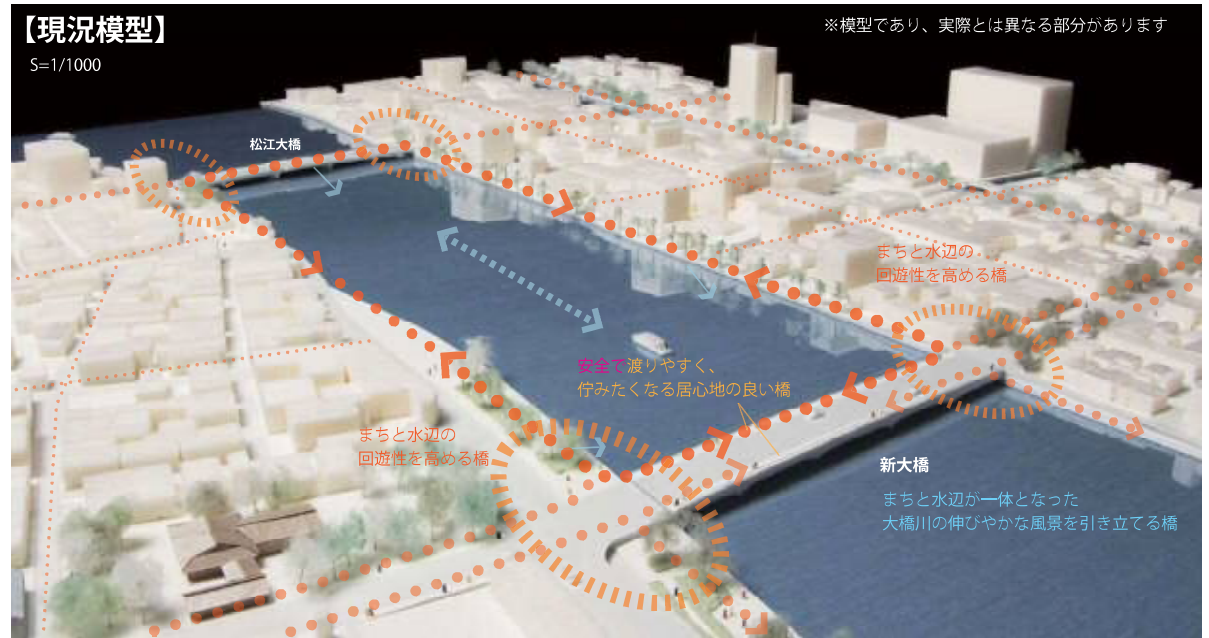
※注 佳麗な=整って美しいさまをあらわす

コンセプト 上記テーマ達成に向けて、計画上大切にすべき3つの柱

- ・まちと水辺が一体となった大橋川の伸びやかな風景を引き立てる橋
- ・安全で渡りやすく、佇みたくなる居心地の良い橋
- ・市民の居場所となる水辺空間や川沿いのまちへの回遊性を生みだす橋

【現況模型】

S=1/1000



設計方針

コンセプト実現に向けた、設計上の具体的な留意事項

① 全体方針

- ・新大橋と松江大橋の関係性を際立たせるよう、城下町の雰囲気や継承する松江大橋に対して、新大橋はまちの新たな賑わいにつながる、モダンなデザインの橋とします。
- ・長い年月を経ても見飽きない橋とします。
- ・松江大橋や大橋川の両岸など重要な視点場面に囲まれているため、眺める場所(距離・角度)や時間帯によって、異なる表情を楽しめるデザインとします。
- ・遠景では大橋川の風景になじむシンプルで美しい形態と、近景では洗練された意匠を持ち合わせ、訪れた人が渡ってみたいくなる橋とします。
- ・橋詰付近には、座って橋と水辺の風景を眺められるような溜まり空間をつくります。

② 橋梁本体のデザイン

- ・水辺やまちの風景が主役になるように、上部に構造がなく、風景のスケールに合う橋梁形式(桁橋)とします。
- ・大橋川に対し左右対称となり、水平方向の伸びやかさと水面の近さを両立する側面シルエットとします。
- ・歩行者や自転車が渡りやすいよう、路面高さを低く抑える工夫をします。

③ 橋上空間のデザイン

- ・安全で歩きやすく、どこでも佇みたくなるような居心地の良い空間デザインとします。
- ・手触りの良い素材や親しみのある材料を用い、橋梁形状と調和する高欄・親柱のデザインとします。
- ・暖かみがあり、自然素材の風合いを活かした材料による舗装デザインとします。
- ・まちや水辺とつながる灯りのデザインとします。

④ 橋詰のデザイン

- ・まちや水辺空間とスムーズに行き来でき、歩行者の回遊性を高める橋詰空間とします。
- ・背後の街路やまちと一体となった『歩行者優先の空間デザイン』とします。

⑤ 市民参加のデザイン

- ・計画段階から市民に参加してもらい、愛着ある橋とします。
- ・見学会やイベントなど、市民参加型の取り組みをおこないます。